

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 21 日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	専任講師	氏 名	寺嶋 康二
研究課題	経営者の心理的特性が財務報告に及ぼす影響に関する包括的研究				
研究キーワード	自信過剰、財務報告、企業行動、業績予想、利益調整、資本調整	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

2023 年度は、共同研究の形で作業の効率的分担を行いつつ、まず自信過剰概念と裁量的な費用調整に関する実証分析を行い、オーストラリアで開催された 32ND ASIAN-PACIFIC CONFERENCE において報告を行った。当該研究では、自信の程度が高い経営者がいる企業はそうでない企業に比べて研究開発費や異常な裁量的支出が増加することを発見した。また、損失をわずかに回避している企業に着目した場合、経営者の自信の程度が高い企業ほど、裁量的研究開発費や異常裁量的費用が小さいことを発見した。さらに、減益をわずかに回避した企業、および ROE が 5%をわずかに上回る企業は、裁量的研究開発費が少ないという弱い結果も観察された。これらの結果は、利益調整インセンティブが高い状況では、投資よりも目標利益が優先されることを示唆している。加えて、これらの実態的利益調整行動は、会計的利益調整と同時に行われていることが明らかとなった。

また、2021 年度より着手していた、リキャップ CB 実施の経済的動機を分析した研究について、最終的なアウトプット先として経営財務研究に投稿を行い、査読付きで掲載がなされた。なお、当該研究では、転換社債の発行と自己株式の取得を同時期に実施する資本政策である「リキャップ CB」を実施する企業の経済的動機を実証的に分析しており、(1)収益性指標改善による ROE の外生基準の達成、(2)経営者が最適と考える資本構成の実現、(3)転換社債発行に伴う裁定機会の提供を目的として当該資本政策を実施することを支持する証拠を入手しており、複合資本政策の決定要因に関する研究蓄積への貢献が期待される。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

「リキャップ CB 実施の経済的動機」塚原慎、寺嶋康二、積惟美 (共著)、『経営財務研究』第 43 巻、1-24 頁、2023 年 12 月。

【著書・論文 (査読なし)】

【学会発表等】

“Degree of Managerial Confidence and Discretionary Expense Adjustments”, Koreyoshi Seki, Koji Terashima, Makoto Tsukahara, 32ND ASIAN-PACIFIC CONFERENCE, 2023.10.

3. 主な経費

実証研究に用いる統計ソフトである stata を 2021 年度に購入したが、それまで研究に用いていた私物のパソコンの場合全上場企業を対象とした大規模サンプルでの統計分析を行うにはスペックが不足していたため、2022 年度の個人研究費を繰り越したうえで 2023 年度の個人研究費と合わせて分析用のパソコンおよびモニター、データ管理用の外付け HDD を購入した。また、出先や自宅での文献渉猟時に書き込みを行うため Apple Pencil を購入した。その他、研究用書籍購入費、各種学会費、共同研究のための資料共有目的で利用する Dropbox 利用料を計上した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費助成事業】

・日本学術振興会、科学研究費 基盤研究(C)、課題名「経営者の心理的特性が財務報告に及ぼす影響に関する包括的研究」、課題番号 22K01814、研究者 寺嶋康二、塚原慎、積惟美（共同研究）、研究期間 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月。

(本文は 2 ページ以内にまとめること)